



望月木工場

主な事業実績 年間 原木挽立量 二万一〇〇〇立方メートル

製品生産量 一万四〇〇〇立方メートル

国有林、道有林造林造材請負 一億四〇〇〇万円

自家造材実行 一億五〇〇〇万円

道除雪請負 四〇〇万円

機械設備 自動送材車付帯鋸盤二台 卓上式自動帯鋸盤四台 横切一台

石田式リングバーカー一台 チップパー機一台 車両一台

従業員 三〇名 外に臨時四〇名

**望月木工場** 昭和三〇年二月一日、望月重興が製函材の製材を目的に個人で、幾寅に工場を創業した。原木は幾寅営林署から供給を受け、その他民間材を使用、製品の販路は、富良野、稚内、釧路方面であった。その後、着実に経営を伸ばし、望月木工場と

改称した。昭和六〇年の現況は、次のとおりである。

営業品目、製造品目等 広葉樹製

材、木取家具材

チップ、パーク生産 人工乾

燥、素材販売

年間生産能力 総挽立 七〇〇〇

立方メートル

機械設備 製材機械、木取加工機

械、パーク機械

乾燥設備 各一式

敷地、建物等 敷地二六六二坪 製材工場 乾燥場

木取加工場、事務所外 従業員一七名

販路は全道一円 本州、四国、九州方面

**福岡木材工業株式会社** 昭和三四年三月一日に福岡吉助が落合に創業した。当時、従業員一五名程度で角材、板、枕木などを製材したが、その後の製材業界の情勢により、四二年七月三十一日解散した。

**その他の木工場等** 橋木材商会は昭和三三年五月一日、幾寅市街に橋一二が操業した工場であり、製函材を製材した。原木は個人から買入れ、製品は富良野町、札幌市、増毛町や広尾町などへ供給していたが、四六年に廃業した。

杉山鹿越木工場は昭和二七年八月に、鹿越で杉山金市が操業した。原木は民有林が主体で、製品は東鹿越鉦山に供給し、その後製函材を生産したが、三六年に廃業した。

駒沢製材工場は昭和三三年二月、駒沢貞雄が下金山で操業を開始し、シナ丸太を原料して下駄用材を専門に製造した。製品は広島へ出荷していたが三六年ごろ閉鎖した。

野口木工場は国策パルプ専属の請負業者として、野口木材部が金山で造材事業を始めたのは昭和二一年で、金山、幾寅両営林署担当区内で年間二万石の造材であった。翌二二年から移動式製材機をもって鹿越で製材業を始めた。二七年には幾寅で四二吋手押機を装置し、二八年には四八吋の本機を増設し基盤の確立を期し

た。原木は営林署からの払下げを受け、製材は農村地帯の住宅、納屋に、市街地の新築家屋用材として供給し、札幌、小樽市へも出荷した。三八年四月には野口木材株式会社幾寅工場となったが四三年に廃業した。

なお、桁工場としては昭和一八年五月、落合に佐藤繁太郎が創業し、戦後の二九年に橋本源吾が継承、橋木桁工場として操業した。製品は道内全般に出荷されたが、三三年一月二四日全焼した。翌三四年に再建操業し、四二年四月から落合林業株式会社として発足した。